

資料 2023年度 三者協働（学生・教員・職員）による FD/SD 研修プログラムの最終報告会記録

関西大学教育開発支援センター
(Kansai University, Center for Teaching & Learning)

1. はじめに

FD/SD 研修プログラムは、大学設置基準改正に伴う SD の義務化に伴い、2017 年度から実施している学内研修であり、今回で 7 年目を迎える。企画・運営は教育開発支援センター「FD/SD 連携プロジェクト」が担い、研修プログラムは三者（学生・教員・職員）協働による混合グループを編成して実施した（図 1）。

しては、専任教員か非常勤講師かは問わずに周知をした。職員に関しては、人材開発課と協力し、職員研修の一環として、募集を行った。

10 月 16 日から 12 月 11 日まで隔週月曜 2 限（10：40～12：10）の時間帯で実施した。今年度は、計 22 名の参加があり、それぞれの割合は、学生が 41%（9 名）、教員が 14%（3 名）、職員が 45%（10 名）であり、全ての参加者がグループワークに参加し、5 名 1 グループとし、計 5 グループに分かれた。各グループに「学生」「教員」「職員」が含まれるように、「教員」として、教育推進部の教員も議論に加わった。

本稿では、2024 年 1 月 15 日に開催した最終報告会（図 2）において、各グループが報告した内容を記録として残す。



図 1 広報用チラシ

本研修は全 6 回で構成され、5 回終了後に計 5 グループによる最終報告会の機会を設けた。各回の講師は教育推進部の教員から、高校と大学の接続や学生支援について講演された。また、学生相談・支援センターコーディネーター、キャリアセンター職員、【自主研究会】関大アライ会担当職員の LGBTQ+に関する関西大学における学生支援の事例紹介が行われた。研修の対象者について、学生に関しては、関西大学の学習・学生生活支援・大学教育等に関心を持つ学生を募った。教員に関



図 2 広報用チラシ

2. 各グループの発表内容

全 5 グループの発表内容（スライド）は次のとおりである。

2.1. A グループ「三者協働空間としてのライティングラボ」

高橋 琉 (法学部2年次生)、孫 小涵 (外国語教育学研究科)、笠谷 柊 (出納課)、江口 敦子 (教務事務G)

理想のライティングラボ

- ・教員、職員、学生の三者でライティングラボを再構築
- ・“思い”を“言葉”にできる場 (TAと利用者の対話を大切にしながら)
- ・多言語に対応できるライティングサポートの充実



三者協働空間としてのライティングラボ

江口敦子 (職員)
笠谷柊 (職員)
孫小涵 (学生)
高橋琉 (学生)

対象者：留学生・学部1年次生

留学生の課題

- ・言葉の壁：日本語以外の言語でのライティングサポート不足・利用上のコミュニケーションの不自由さ

学部1年次生の課題

- ・知名度の低さ：入学直後にライティングラボの説明があるため、どのように利用するのが想像できない。

共通の課題

- ・利用ハードルの高さ：ライティングラボを初めて利用することに対するハードルが高いと感じている学生が多い。

背景

ライティングの重要性

- ・大学の学びに必要なだけでなく、卒業後社会で活躍するためにも重要な力である (関西大学ライティングHP)
- ・社会に求められる多様な能力の育成には、ライティング支援の充実による「考え、表現し、発信する力」を培う必要がある (大学間連携共同教育推進事業 関西大学・津田塾大学 JIP)

→ライティングラボの利用・促進が必要

改善策 (留学生に向けて)

課題：①言葉の壁・②利用のハードルが高い

①の課題に対して・・・

多言語サポートの充実

- ・ライティングサポートを日本語だけでなく、英語や他の主要言語でも提供する

初回利用者向けのサポート強化

- ・留学生の新入生ガイダンスやオリエンテーションでの紹介を強化する
- ・初回利用者に向けたワークショップを開催する

②の課題に対して・・・

オンラインリソースの提供

- ・ライティングに関するオンラインツールを提供する → 留学生が自分のペースで学ぶことができ、柔軟性UP

フィードバック文化の醸成

- ・ライティングラボとMiroomのTAや教員で情報共有を行う (「学生指導日記」の共有)

ライティングラボの概要

ライティングラボ：関西大学教育推進部・教育開発支援センター (CTL) に設置された組織。
すべてのキャンパスに展開されており、教養・学生生活に関わるさまざまなライティング支援を実施している。

===サポートできる分野===

- ・プレゼンテーション資料
- ・授業のレポート
- ・卒業論文、修士論文
- ・留学の論文準備
- ・ゼミ発表資料
- ・その他

※ライティングラボで非対応の分野は以下へ案内

- ・就活関係 (ESなど) → キャリアセンター
- ・英語でのライティング → Miroom
- ・理数系の問題演習 → 学習支援室

URL: <https://www.kansai-u.ac.jp/labo/>

改善策 (学部1年次生に向けて)


課題：①知名度の低さ・②利用のハードルが高い

①の課題に対して・・・

- ・用知時期の見直し
 - 入学直後だけでなく、授業内でレポートが必修化しやすい学組の中間と期末に再度告知する。
- ・開校場所：人が集まりやすい入居児童科講義棟
- ・既存LMSの案内場所の変更
 - サイト下部にあるライティングラボの案内を学生が目に入りやすいサイト上部に変更する

②の課題に対して・・・

- ・SNS上での相談の実施
 - 学生が利用しやすいLINE上で相談を実施し、気軽に利用できる機会を確保する。
- ・既存のイベントの見直し
 - オンライン講座：講義形式ではなく模範形式にする。



現状・課題

①利用者が全体的に少ない (とりわけ1回目の利用)

- 2023年度の利用率 15.72人 (学生数全体の約5%) ライティングラボ進士へのインタビューより
- 現状行っていること
 - ・新入生ガイダンスでの案内
 - ・チラシの配布 etc.

②指導教員への負担 (教員自らが行う仕事が増える)

具体例

- ・ゼミで再度、基礎ゼミで扱う内容の指導をしないといけない
- ・留学生を多く抱える研究室において、ライティングを含む大学一校のサービスの周知

本発表では、初めての利用者を増やす試みを提案

まとめ

ライティングの利活用・促進のためには、学生にとって利用しやすい環境を整える必要がある。

- ・ライティング支援の対応言語の拡充
- ・初回利用促進のための周知方法の改善
- ・他のライティングサポート機関 (Miroom) との情報共有・連携

今後の展望

- ・部署間・教員との連携：現在はライティングラボしかライティングサービスを行っていないが、かつてMroomで行っていた日本語以外のサービスを復活させる
- ・チューターの人手確保と人材育成（外国語に対応可能なチューター）：積極的に留学生を募集していく
- ・利用がくすぶっているライティングラボを学生、教員、職員の三者が協働して再構築する！

01 問題の所在

「教えられる」ばかりで主体的・能動的な学びを実践していない。他学部と交流できる機会がない。チャレンジできる環境も少ない。

社会人になる前にキャリアについて考えられる機会が少ない。働くうえで必要な能力を学生のうちに知っておきたい。

自分がある事柄の当事者であるように他者も何事かの当事者であることを慮る力、すなわち共感する力が成熟していない。

参考文献・インタビュー

- ・関西大学ライティングラボHP <https://www.kansai-u.ac.jp/ibc/about/index.html>
- ・「ライティングセンターの利用のきっかけと継続的な利用の阻害についての量的分析」西浦真琴・小林至道・毛利美穂 関西大学教育研究センターライティングラボ <https://www.kansai-u.ac.jp/ibc/about/pdf/presentation/11/presentation.pdf>
- ・津田塾大学ライティングセンターHP <https://www.tsuda.ac.jp/about/index.html>
- ・大学間連携共同教育推進事業 関西大学・津田塾大学〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング/キャリア支援 HP <https://www.tsuda.ac.jp/kankeigo/writing/center-tsuda.html>
- ・教育推進部特別任用助教 張機紅先生 2023年12月7日
- ・神宮司健太さん（関西大学教員）2023年12月7日

| | | |
|--|---|---------------------------------------|
| 問題行動 実行しない（実行できない）物がない 実行しても（実行されても）効かない | Excuse 「暇な時間がないからです」 「暇な時間はいまは（から）」 | 背景 認知の歪み（主観的欠陥）（A） 其能力の低下・欠陥（B） |
|--|---|---------------------------------------|

A

PDSを自らまわすことができない

客観的評価の基盤

自己肯定感の低下

B

相手の期待に思いをまわすことができない

協働性の欠落

共同作業の停滞

**社会人としての基本行動に支障
社会人基礎力の未成熟**

2.2. Bグループ「社会人基礎能力育成プログラム」

上別府 なつみ（法学部3年次生）、大西 賢汰（理工学研究科）、三浦 真琴（教育推進部教授）、木村 綾吾（施設G）、中尾 満里奈（大学院入試G）

02 社会人基礎力

「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱

「社会人基礎力」=「社会でよりよく生きる力」

社会人基礎力養成プロジェクト

B班
大西・上別府・木村・中尾・三浦

キャリアデザイン科目は多数開講されているが社会人基礎力を養うプログラムが不足している。

| 科目名 | 担当教員 | 内容 | 社会人基礎力 |
|---------------|------|----------------------|---------------|
| キャリアデザイン1 (2) | 三浦真琴 | 社会人基礎力(1) 働くこと、生きること | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(2) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(3) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(4) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(5) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(6) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(7) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(8) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(9) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(10) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| キャリアデザイン2 (2) | 三浦真琴 | 社会人基礎力(1) 働くこと、生きること | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(2) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(3) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(4) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(5) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(6) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(7) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(8) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(9) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |
| | | 社会人基礎力(10) 社会生活の基礎 | 社会人基礎力の働く力の養成 |

INDEX

01
問題の所在

02
社会人基礎力とは

03
プログラム内容

04
まとめ

03 プログラム内容

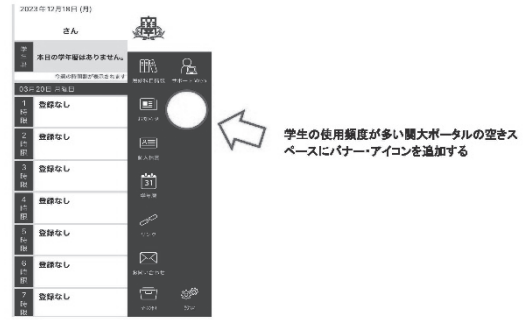
そこで

社会人基礎力育成プログラム

を提案します！

関大の上手な使い方

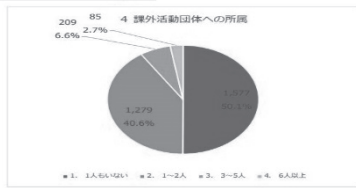
橋爪（教員）・青木（学生）・山川（職員）・山中（職員）



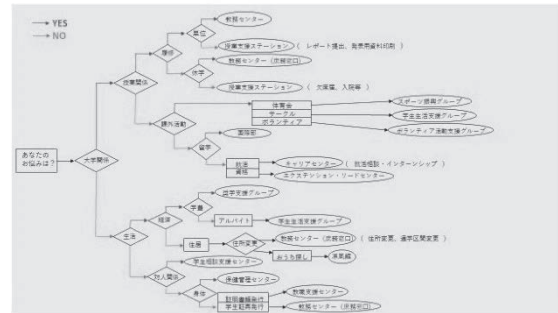
①学生の声

24 課業や学生生活について分からないことを尋ねたり、相談したりできる関西大学の教員や職員はどれくらいいますか。

| | | |
|---------|-------|-------|
| 1. 1人以内 | 1,577 | 50.3% |
| 2. 1〜2人 | 1,279 | 40.6% |
| 3. 3〜5人 | 209 | 6.6% |
| 4. 6人以上 | 85 | 2.7% |



202年度春学期の授業・学生生活に関する学生アンケートを学部集計後



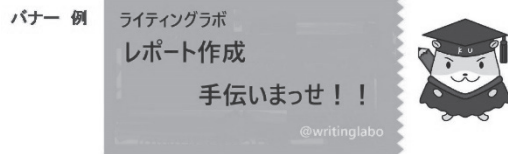
②関大にあるサポート

- 学生相談・支援センター(新関西大学会館北棟1階)
 - …学生生活における悩みを相談できる窓口があり、相談内容に応じて、「教務センター」「キャリアセンター」「学部オフィス」「国際部」「保健管理センター」などの専門部局を案内している。
- 学生生活・支援グループ(湊風館1階)
 - …館学上のこと、人生のこと、対人関係、家庭、就職のこと、思想上のこと等、いろいろな形でみなさんの相談に応じている。
- ピアコミュニティ
 - …8つのコミュニティと協力し関大生が求める学生支援を関大生自ら実践する団体。

Webページ用バナーでの告知

インフォメーションシステム下部ないし左のスペースに、数秒ごとに変化するバナーを貼る

一番目につきやすいページに恒常的に案内が繰り返し表示されることで、一種の刷り込み効果を期待する



②関大にあるサポート

- ライティングラボ(総合図書館、第1学舎1号館5階、第4学舎1号館1階)
 - …学生の皆さんのライティングラボ(文書作成)をサポートする施設。レポート・論文をはじめ、さまざまな文書作成をサポートする。
- キャリアデザインラボ(キャリアセンター内)
 - …就職活動を始め前段階の学生に向けた、興味関心を広げるワークショップの実施や様々な学内イベントを紹介している。進路が決定した先輩や常駐スタッフに、予約不要で学生生活の悩み事や困りごとを相談できる場所。

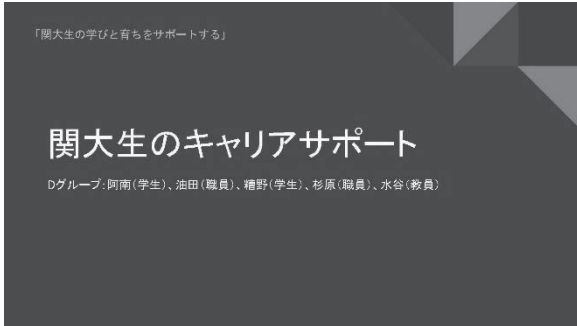
③学生を適切な支援へ繋げるための提案

- ・総合相談窓口を学生相談・支援センターから学生生活・支援センターに移す(あるいは、教務センターに移す)
- ・関大ポータルの空きスペースにバナー・アイコンを追加する
- ・ポスター(悩み、相談事の解決に至るツリー)による交通整理



2.4. Dグループ「関大生のキャリアサポート」

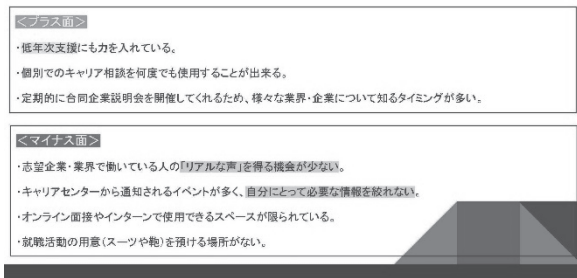
阿南 宙良 (法学部3年次生)、糟野 七緒 (文学部3年次生)、水谷 壮志 (環境都市工学部助教)、油田 和樹 (国際プラザG)、杉原 萌子 (情報推進G)



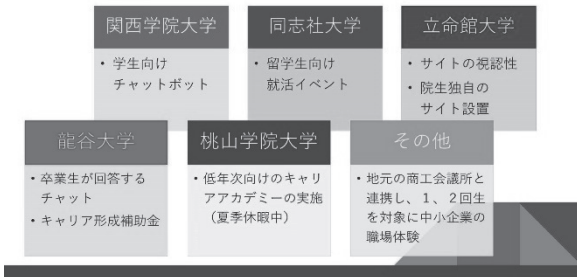
目次

1. 本学におけるキャリアサポートの現状
 - ・他大学の事例
 - ・改善案
2. KIGSSの現状
 - ・改善案①
 - ・改善案②
3. まとめ

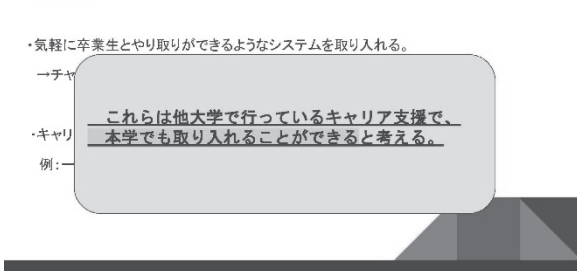
本学におけるキャリアサポートの現状



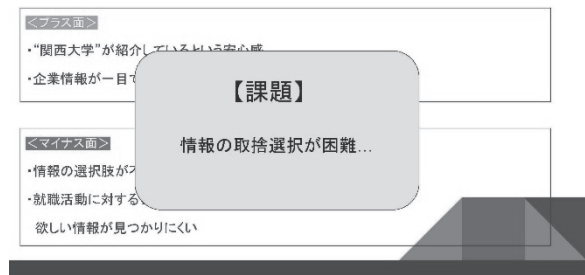
他大学の事例



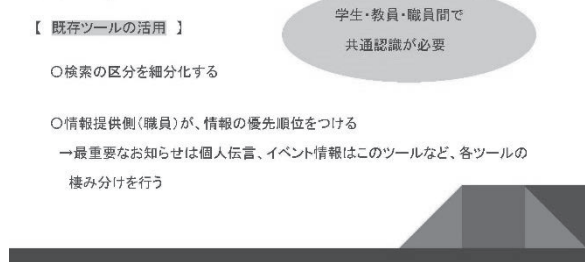
改善案



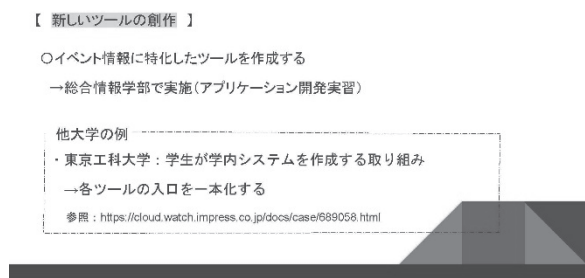
KIGSSの現状



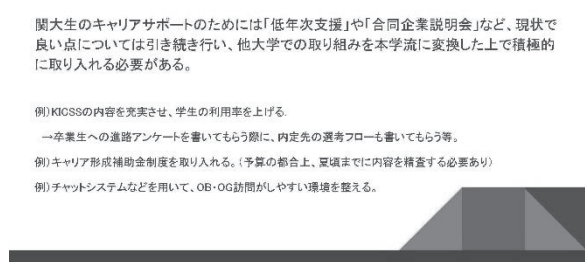
改善案①



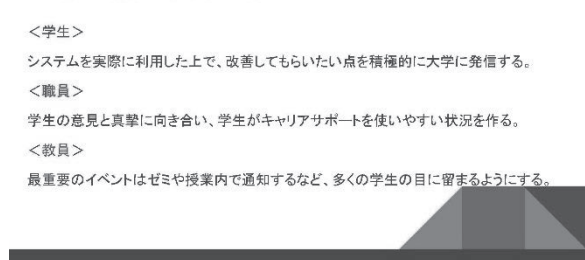
改善案②



まとめ



三者の今後の取り組み方



ご清聴ありがとうございました！

2.5. E グループ「学内国際交流スペースの活用促進のための提案」

水谷 晴香（商学部3年次生）、森田 真帆（社会学部2年次生）、近藤 亮介（教育推進部特別任用助教）、赤堀 仁香（国際教育G）、岸田 宝來（スポーツ振興G）

FD/SD 研修最終報告会 2023

学内国際交流スペースの活用促進のための提案

Eグループ

背景・目的

関西大学で育成する「考動力」

「考動力」とは

“自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する力”

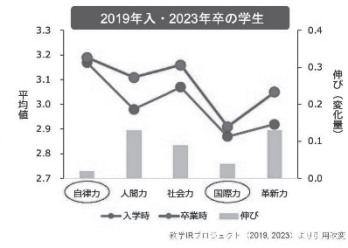
- 5つの力で構成
- 力の獲得状況について、入学時、在学時、卒業時に学生が自己評価



数学位プロジェクト (2021) より引用 3

関大生は、「考動力」を身につけているのか

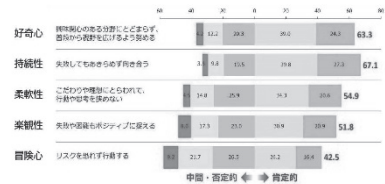
- 「自律力」と「国際力」の伸びが小さい
- 特に「国際力」の平均値は低いまま推移



関大生の行動特性

- やる気はあるけど... リスクは避けたい?
- 身の回りのチャンスを活かしていない?

キャリア形成に影響を及ぼす5要素（偶然を活かす力）



関大生の成長を支援したい

本提案のメインターゲット

“「国際力」を高めたいが、リスクを恐れて行動できず、チャンスを活かしていない...”という学生

▼ポイント

- 型にはめず、自主性を尊重したい
- 学内で気軽に学べるようにしたい

「外国語・異文化 × 自主学習 × 学内」を実現する環境

Multilingual Immersion Room : Mi-Room (エムアイルーム)

目的

Mi-Roomを活用し、学生が国際力の向上に向けて気軽に行動できる仕組みづくりを行うこと

▼紹介ビデオ



現状・課題

Mi-Room

○Mi-Roomとは？
異文化体験や国際交流を学内で実体験できるグローバル・コミュニケーションスペース
(千里山キャンパス第2学舎1号館2階)

<課題>

- ・初めて入室する際にハードルを感じる学生が少なくない
- ・利用者が常連化している傾向にあり、利用者数の増加に伸び悩んでいる



2023年度秋学期セッションスケジュール

9

Mi-Roomの広報

- ・インフォメーションシステムの掲示
- ・国際部ウェブサイトGLOBAL NAVIでの告知
- ・Instagram (Mi-Room公式アカウント) の投稿

⇒学生が情報取得手段として最も利用しているのは、Instagram

【Mi-Room Instagram】

- ・2022年4月より運用開始
- ・フィードにイベントやセッション情報を投稿
- ・ストーリー機能でイベントの様子を発信



10



11

Mi-Roomの活用促進のための提案

1 広告の目的明確化

Mi-roomの価値を誰に
どんなふうに関心を持ってほしいか

2 効果的的な展望

媒体選択の重要性
広告を打ち出す前後の評価

持続的かつ効果的な広告戦略の展開

12

| | | リーチ | ハードル | 広告効果 |
|---|--------------|-----|------|------|
| 高 | 大型モニターでの動画放映 | ○ | ○ | ○ |
| | KBCによるお昼の放送 | ○ | ○ | ○ |
| | LINEスタンプカード | ○ | ○ | ○ |
| | LINEオープンチャット | ○ | ○ | ○ |
| | チラシ | ○ | ○ | ○ |
| | バーチャル交流会 | | ○ | ○ |
| | OUTLOOK | | | ○ |
| 低 | バーチャル交流会 | | | ○ |
| | 関大LMS | ○ | | |

13

提案① 凧風館大型モニターの活用



例) スポーツ振興グループ

- ・凧風館大型モニターを使用した体育会学生の活躍の周知
(試合後インタビュー・全日本大会のブリックビューイング)
- 利用方法：学生生活支援グループに使用許可証を記入し許可をもらい使用可能となる

※特徴

- ①凧風館1階には自習スペースのあり学生が多く集まる
- ②大きな画面を活用し「視覚、聴覚」から周知できる
- ③映像を流すことでイメージがわかりやすい
- ◎Mi-Roomの雰囲気わかる紹介動画を流すことで、「入りやすく」を改善
- ◎Mi-Roomを知っているが一歩踏み出せない学生へのアプローチとなる

提案② KBC関西大学放送研究会の活用

○KBC (関西大学放送研究会) の活動

お昼休み、12:15~12:55までの約40分間隔にわたって、大学内に設置されたスピーカーから
手作りのラジオ番組を放送。

例) スポーツ振興グループ

(今週の体育会の活躍として、体育会学生の各クラブの戦績を放送を行っている)

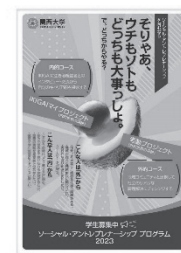
・学内で過ごしていると自然に音として情報が入ってくるため広く多くの学生に広報できる。

◎Mi-Roomを知らない学生に対し広く周知できる

◎Mi-Roomを知らない学生へのアプローチの第一歩となる

15

提案③ キャッチーなチラシの作成



例) 社会連携部 地域連携センター

「ソーシャル・アントレプレナーシッププログラム」
(通称：アポカドプログラムの募集チラシ)

→ プロのデザイナーに委託する形で作成

【メリット】

- ・チラシの完成度を高めることができる
- プロモーション効果：高

- ・デザインを考える時間を、プログラム内容の充実など、他のことに充てることができる。

【デメリット】

- ・デザイナーに委託するための費用がかかってしまう

16

提案④ 関大LMSでの周知

その他のコース

検索

オンデマンド・集中・編成等

海外ワークショップ[3] (2023-04-09563) 2023 通年...

[未分類]

2023年度各学期 就業体験・インターンシッププログラム 2023 通年...

2023年度FD/SD研修/プログラム 2023 通年...

ITセンター 公開講座 2023 通年...

情報リテラシーを深めるための個人AIリテラシー講座です

- ・国際力向上プログラム
- ・Mi-Room主催イベント 等

17



18

引用・参考文献

- J・D・クランボルト, A・S・レヴィン: 花田ほか訳 (2005) その幸運は偶然ではないんです!, ダイアモンド社
- 教養Rプロジェクト (2019) 2019年度入学時調査から見えた新入生のホンネ. <https://www.kansai-u.ac.jp/fr/archives/2019/07/2019.html>
- 教養Rプロジェクト (2021) 2020年度卒業時調査 活動報告, ③自分の能力について. <https://www.kansai-u.ac.jp/fr/archives/2021/03/post-8.html>
- 関西大学国際部 (2022) GLOBAL NAVI. <https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/jobalnavi/room/>
- 関西大学国際部 (2023) 2023春学期 Mi-Room利用アンケート
- 教養Rプロジェクト (2023) 2022年度卒業生に聞いた卒業生の実感! <https://www.kansai-u.ac.jp/fr/archives/2023/07/2022-3.html>

19

参考文献

関西大学教育開発支援センター (2022) 「2022年度 三者協働 (学生・教員・職員) によるFD/SD 研修の最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』14, 111-123.

関西大学教育開発支援センター (2021) 「2021年度 三者協働 (学生・教員・職員) によるFD/SD 研修の最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』13, 73-81.

関西大学教育開発支援センター (2020) 「2020年度 三者協働 (学生・教員・職員) によるFD・SD 研修の最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』12, 189-202.